

令和落首考



山丘 春朗

2023年後半

天使だった。魔物だったり、お金の顔つきは実に様々です。慈善の灯火もあれば菓子箱の底の山吹色もある。〈カタカナで書く汚く見える「カネ」〉。わけても「政治とカネ」にはカタカナが似合うようです。

〈木枯らしや安倍派に平家物語〉
 〈臆出せば消えて無くなる自民党〉
 我が世の春を満喫するうちにモラルが自壊したのでしょうか。年の瀬になって政治資金パーティーをめぐる裏金疑惑が噴出しました。傲れる者は久しからず。与党は大揺れです。
 〈日本丸こんな人等が舵を取る〉
 疑惑は19日、検察の強制捜査で事件に発展します。内外に憂・憤・嘆ばかり多かったこの半年を、朝日川柳の掲載句で振り返ってみます。

◆ ◆ ◆
 7月ごろの主役はマイナンバーカードでした。〈何兆円かけたカードの情けなき〉。トラブルが続出して不信が大きく膨らみました。あわてた政府は自治体に「総点検」を上意下達。〈意地だけで苦役を強いる総点検〉。メンツと沽券で事が進むと大抵ロクなことにはなりません。似ているのが万博でしょう。
 建設工事は遅れるうえ、へドラ息子みたくに夢洲金を喰い。先ごろ前売り入場券が発売されましたが〈このままじゃ工事現場の入場券〉の懸念は、あながち誇張だとも言え

ません。川柳子は憂えます。〈決めた事もう止められぬ国に住み〉。辺野古も然り。それらに限らず一事が万事という感が、怖いところです。

◆ ◆ ◆
 政治から社会に目を転じれば「四大不祥事」とでもいふべきニュースが相次ぎました。〈壊しますクルマも人も街路樹も〉。ビッグモーターは不埒さもまたビッグでした。ジャニーズの問題は大きな波紋を広げました。〈少年を喰って少女に夢を売り〉。〈BBCなければ今も沈黙か〉は英国公共放送による報道まで見て見ぬふりをしてきたテレビや新聞へのきつい批判です。

◆ ◆ ◆
 さらにアメフト部をめぐる日大の混乱。前体制の不祥事を受けて去年就任した林真理子理事長は〈火中の栗拾ってみたら直ぐはじけ〉。そして宝塚歌劇団です。〈悪弊を美風にしてた魔法解け〉。〈どの辺が「清く正しく美しく」〉。閉鎖的なタテ組織のゆがみが、多くのファンに憧れと夢を摘んでしまいました。

◆ ◆ ◆
 10月7日、この日を境に国際情勢は大きく変わります。ハマスの奇襲とイスラエルの報復です。〈狼を放ち狼放たれる〉。憎悪の連鎖による流血がまた繰り返されたのです。戦火の一番の犠牲はいつも子どもたち。〈死ぬかもと腕に名前をガザ

の子は〉。〈世の辞書にあってはならぬ子の墓場〉。〈我が身にも張り裂ける胸一つあり〉は悲憤と一個人の無力感のもどかしさでしょう。イスラエルへの批判が高まりました。いきおい衆目はガザに集まり、ウクライナは後景に。〈プーチンの影薄くするネタニヤフ〉。ヒール(悪役)交代の感さえあって、ロシア大統領には風除けになっているようです。報道も減って〈片隅で冬枯れているウクライナ〉。しかし忘れてはならないもう一つの戦火です。

◆ ◆ ◆
 〈川柳の種は尽きぬが実にならず〉この句に、7月から選者に加わった柴門蔵人は「うつせみ」(人の世)と寸評を添えました。あかるさの乏しい世の中への嘆きなのです。

◆ ◆ ◆
 閉塞感の根っこ一つには、自分たちや取り巻きの仲間をお手盛りで甘やかす縁故と私物化の政治があります。〈政治家に政治やらせるおそろしさ〉。〈討ち入りがしたくなるぞと民怒り〉。政権党の方々には川柳欄を一読願いたいものです。新聞の一隅に、忬度なし、べんちゃらなしの「真実の一行」が佇んでいます。

◆ ◆ ◆
 おしまいにになりましたが明るい話も。阪神優勝で関西は盛り上がりました。「アレ」の投句殺到。〈あやかってアレと言い出すハルキスト〉なんて変化球もありました。そしてまた、このお二人に光をもらいました。〈冠冠冠 冠冠冠 冠冠冠 冠冠冠 冠冠冠 冠冠冠 冠冠冠 冠冠冠〉。〈デコピンも彼が名付けりやいい名前〉。大いなる感謝とともに去りゆく卯年を見送ります。皆様もどうぞ良いお年を。(朝日川柳「選者」)